

(4) 実践事例

イ 実践事例② B校 第2学年

10  
月  
の  
実  
践

単 元 名：君は〇〇を知っているか ～評論文を書こう～

教 材 名：君は「最後の晚餐」を知っているか（光村図書2年）

- 単元の目標：①学習内容に興味をもち、他者の文章の書き方を自分の表現に生かそうとする。  
 ②社会生活の中から題材を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。  
 ③自分の考えが効果的に伝わるように、観点を決め、根拠を明確にして書くことができる。  
 ④相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解することができる。

指導計画（全6時間）

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…

次	時間	学 習 活 動	手 立 て
一	1	○「最後の晚餐」の魅力伝える文章を書く。 ○評論文のモデル文を読み、学習の見通しをもつ。	A④ 学習計画を示す A⑤ モデル文の提示
二	2	○説明的な文章の文章構成を確かめる。 ○筆者の「科学的な見方」をつかむ。	C⑤ ファイリング
	3	○筆者の「全体と細部に注目する見方」をつかむ。 ○評論文の書き方を確かめる。	C⑤ ファイリング
	4 本時	○友達に魅力を伝えたいと思うものを決め、対象を分析する。 ○評論文の構成メモを作る。	A⑩ 考えるためのヒントを用意し、利用しながら1人で考えられるようにする。 A⑬ ワークシートの工夫
	5	○構成メモを基にして、「君は〇〇を知っているか」という題で評論文を書く。	
三	6	○班で作品を読み合い、互いにアドバイスをする。 ○単元の学習を振り返る。	B⑰ 評論文の題材別に班編成を行い、互いの作品を評価する場を設定することで、自らの考えを深めることができるようにする。 C⑮ 単元で学んだことを、実生活や他教科の学習の中でどのように生かすことができるかを記述させる。

**本時の目標**

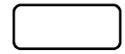
社会生活の中から題材を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。

**本時の授業の様子**

※本単元で目指した「生徒の望ましい姿」に対する手立て…



その他の手立て…



	学習活動	教師の働き掛け (○) と評価 (◆)
導 入	1 前時の学習を振り返る。 	○学習計画表を基にして、前時までの学習を振り返らせた。 ○デジタル教科書を使って教材文の振り返りを行い、筆者の論の展開の仕方や表現などを振り返らせた。
	2 本時のめあてと学習活動を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         めあて                          評論文『君は〇〇を知っているか』を書くために、観点や根拠を整理して構成メモを作成しよう。                     </div>	○作品の魅力を語るためには、観点を立て、その作品が素晴らしいと思える根拠を挙げる必要があることを確認させ、本時の活動の見通しをもたせた。
展 開	3 評論文の題材を決め、対象の魅力を分析する。 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         A⑩ 生徒が自主的に取り組むことができるようにするために、考えるヒントを記入したワークシートを使用した。                     </div> ○自分の身近なものや関心のあるものの中から、その魅力を伝える題材を決めさせた。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                         A⑩ 題材を決められない生徒には、タブレット内に用意した絵画、音楽、書籍、人物などの具体例を参考にして、題材を決めさせた。                     </div> ○どのような観点を示して魅力を伝えるか、対象のすばらしさを述べるための根拠を何にするか考えさせた。観点を決められない生徒には、選んだ対象に合う観定の例を示して、思考を促した。

	学習活動	教師の働き掛け (○) と評価 (◆)
展開	 <p>4 自分の考えを整理して、構成メモを作成する。</p>	<p>A⑬ 生徒が自分の思考の過程をたどることができるように、ワークシートの構成を工夫した。</p> <p>○自分の考えやその根拠をどのような順序で書くと伝えたい内容が伝わるか、構成を考えさせた。</p> <p>A⑩ 段落構成や段落の役割を意識させるとともに、評論文で使ってほしい表現についても示し、評論文を書くときの参考にできるようにした。</p> <p>◆社会生活の中から題材を決め、材料を集めながら、自分の考えをまとめることができる。【書く能力】</p>
まとめ	<p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。</p>	<p>○学習計画表に、本時の学習の振り返りを記述させた。</p> <p>○次時の学習内容を確認し、学習活動への展望をもたせた。</p>

**検証授業を振り返って**

(成果○ 課題●)

- 対象の魅力や価値を論じるためには、自分自身がその対象をよく知っていなければならない。生徒自身もそのことに気付き、おのずと身近なものや最近関心をもっているものを題材として選択していた。そのため、抵抗なく活動に取り組むことができ、最後まで粘り強く活動することができた。
- ネームプレートを使って黒板にグループを提示し、ほかの人がどのような分野の題材で評論を書いているのかをはっきりさせた上で交流させた。また、読んでみたい分野の評論を書いた人との交流を取り入れることもでき、生徒の意欲につながった。
- 評論文の中で、教材文の文末表現を使わせたことで、普段は使用しない表現に触れる機会になった。特に、どのように書いてよいか分からずにいつもは活動の手が止まってしまう生徒も、提示した文末表現を使うところから始めることができた。
- 生徒の実生活と「評論」を結び付けることが難しく、学習のゴールをつかみづらいと感じている生徒もいた。
- 教科書教材の文章表現に大きく影響され、特に書き出し部分の表現の工夫に膨らみが見られなかった。